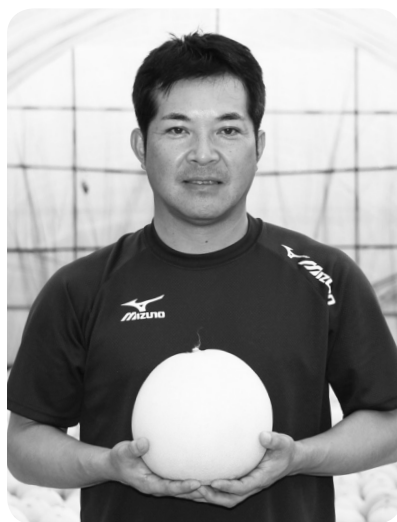


## 晩白柚で“やつしろ”を 全国に届けたい

JAやつしろ八代市果樹部会青年部副部長  
**福田 清和** さん（奈良木町）



市の木に制定されている「晩白柚」は、名実ともに八代地方が唯一の産地であり、本市を代表する特産品のひとつで、その名前だけで八代市をイメージすることができる。世界最大のかんきつ類としてギネスにも登録されている果物で、今年8月には、これまでのギネス記録を更新し、重量4859.7gの晩白柚が正式に登録された。12月から収穫・出荷が本格化する中で、年末の贈答用として人気が高く、年明けから3月頃までのおいしい時期も楽しむことができる。その生産に当たり若手をリードしているのが、JAやつしろ八代市果樹部会青年部副部長の福田清和さんだ。

八代市果樹部会青年部は、生産技術の向上を目的に後継者育成と生産手法などの情報交換の場として、今年から正式に発足している。以前は果樹研究同志会が県内各地にあり、果樹の全般的な情報交換の場となっていた。福田さんは、大学卒業後の22歳から父親とともに晩白柚農家を続けている中で、若い頃から会合などに積極的に参加し、各地の先輩農家の知り合いを増やすことで、情報交換も盛んに行っていた。「父

から受け継いだ技術というイメージはあまりないですね。一緒に仕事をしながら、なぜこの作業をするのか不思議でした。何年か続けている間に理解できましたが、先輩農家の隅々まで行き届いたすばらしい栽培技術を見て、聞いて、学ぶことも多かったように思います」と語る福田さん。最近、若手農家の人たちを会合などで見かけないことに憂慮していた矢先、果樹部会青年部の立ち上げの話がまとまった。

晩白柚の生産を活性化させ、安定した生産を確保するためには、若手となる後継者の育成が必要不可欠となる。1農家（家族経営）当たりの生産限界が面積50アール程度と言われている。「生産が縮小してしまうと市場から見放されてしまいます。希少価値と言われるのは、逆の意味では一部の人の口に入るだけで、市場では見掛けなくなってしまいます」と危機感を募らせる。

将来に向けた明るい話題もある。今年も海外に進出、香港に輸出して旧正月用の贈答品として勝負を仕掛ける。日本では大きすぎて驚かれるものでも、旧正月文化では大きいものほど喜ばれ、高値で取り引きされる。

「肥料の有機化や減農薬にも取り組み、食の安全にも配慮しています。その取り組みは各生産者にも広がりつつあります」と語る福田さん。八代産晩白柚の生産力強化の動きは、果樹部会青年部を中心に今後も注目される。



▲生産方法を語り合う近所の果樹部会青年部の仲間



2015.DECEMBER

No.132

- 3 **取り組んでいます**  
デジタル教科書の活用・読書活動の推進
- 4 平成26年度 **市決算報告**
- 7 **家庭や職場でできる省エネ**
- 8 **市・県民税の改正**  
**財産相続の税制改正**
- 10 「やつしろ元気体操」でロコモ予防
- 11 **介護サービス 利用までの流れ**
- 12 **高額介護合算療養費の申請**
- 13 **障がいのある人へのサポート**
- 14 **くらしの情報**
- 16 **市民カレンダー**
- 18 **くらしの情報**
- 27 **広告**
- 28 **まちのわだい**
- 31 **伝言板**
- 32 **年末年始のごみ受入・収集**

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。  
トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ